

記念講演会 「男と女の脳科学 ～脳が作り出す 男女のミゾ、 人生の波～」

くろかわいほこ
講師 黒川伊保子 先生

これから1時間半ほどの時間をいただきまして脳のお話をしていこうと思います。私が脳の話をするのですが、私は医者でもなく、生理学者でもなく、心理学者でもございません。人工知能のエンジニアでございます。人工知能の研究者です。大学では物理学素粒子が専門で、1983年大学を卒業して社会に出てまいりました。昭和で言うと58年です。宇宙創世の謎を解く最先端の素粒子の研究をしておりましたが、宇宙創世の謎を解いてもご飯は食べられないので、どうやってご飯を食べようかなと思っていた頃です。まだ男女雇用機会均等法よりも3年ほど前ですが、四大卒の女子への就職の門戸はまだ狭かった時代です。しかし当時はコンピュータ業界が発展している頃で、特にソフトウェアの部門で女性の採用を増やしていた時期だったのです。そんなわけでコンピュータ業界に就職しまして、縁あって人工知能の研究室に配属になりました。私が人工知能の研究を始めた1983年は、後に私たちの業界で、AI元年と呼ばれる年になりました。明確にこの年、この国で人工知能の研究が始まったからです。世界では人工知能の研究はすでに1950年代に始まっていた。人工知能の父と呼ばれるアラン・チューリングという数学の博士がいますが、イギリス人のアラン・チューリング博士は戦時中に有名なドイツの暗号「エニグマ」を解いた有名な先生です。この方が1950年代に人工知能という概念を生み出し、その研究が世界で始まりました。特に軍事的な研究の一環として世界で始まったので、この国は1950年代そういう環境ではなかった、その第一次人工知能ブームに乗り遅れました。1980年頃、第二次人工知能ブームが予見されたその頃です。時の通産省にあるキーマンの方がいて、その方が高らかに宣言したのです。21世紀は人工知能の世紀になると。明確に2015年を超えると人工知能がこの世を牛耳るようになる。おそらく21世紀の半ば頃には、不動産でもなくエネルギーでもなく金融でもなく自動車でもない、人工知能がこの世を牛耳ることになるだろうとおっしゃいました。なのに、この国には人工知能という肩書きを冠した研

【プロフィール】

株式会社 感性リサーチ 代表取締役
人工知能研究者、脳科学コメンテーター
感性アナリスト、随筆家、日本感性工学会評議員

- 1959年 長野県生まれ、栃木県育ち
- 1983年 奈良女子大学 理学部 物理学科卒
(株)富士通ソーシャルサイエンスラボラトリーにて、14年に亘り人工知能(AI)の研究開発に従事した後、コンサルタント会社勤務、民間の研究所にて勤務。
- 2003年 (株)感性リサーチを設立、代表取締役に就任。
- 2004年 脳機能論とAIの集大成による語感分析法『サブミナル・インプレッション導出法』を発表。
サービス開始と同時に化粧品、自動車、食品業界などの新商品名分析を相次いで受注し、感性分析の第一人者となる。
- 2005年 倉敷芸術科学大学非常勤講師就任
- 2006年 大前研一アタッカーズビジネススクールで、感性マーケティング講座を開講

大学卒業後、コンピュータメーカーにてAI(人工知能)開発に携わり、脳とことばの研究を始める。やがて、脳機能論の立場から、語感の正体が「ことばの発音の身体感覚」であることを発見。AI分析の手法を用いて、世界初の語感分析法である『サブミナル・インプレッション導出法』を開発し、マーケティングの世界に新境地を開拓した、感性分析の第一人者である。

近著に「怪獣の名はなぜガグゲゴなのか」(新潮新書)、「恋愛脳」(新潮文庫)、「しあわせ脳」に育てよう! (講談社)、「恋するコンピュータ」(ちくま書房)、「女たちはなぜ「口コミ」の魔力にハマるのか」(KKベストセラーズ)など

究室も研究者も一人もいなかったのです。そこで憂いました通産省が10年計画の人工知能基礎研究所を建てました。それが本格稼働したのは1983年です。1983年にはこの国のコンピューターメーカーに召集令状が届きまして、32歳以下の若手研究者を提出するようにと。富士通、日立、東芝、三菱、日本電気、様々な国産コンピューターメーカーがここへ数学や情報の専門家、あるいは若手エンジニアを送り込みました。そのうちの一人となり、この国の創世記の人工知能の研究の中に身を投じるようになりました。おかげさまで本当に世界の最先端を走り抜けてきた十何年だったと思います。1991年にこの国の原子力発電所で日本語で会話してくれるコンピューターが登場しました。日本語対話型と言って日本語で話しかけると結果を出してくれます。例えば「1970年代アメリカで細管破損の事故があったよね?」と聞くと「はい、1972年ノースカロライナ2号機のケースですね」と答えてくれるコンピューターでした。当時の大型機環境では実は世界初と言われていました。新聞には世界初の日本語対話型コンピューターと発表されました。当然大袈裟です。他の国で日本語がある国があるわけがないので、単なる日本初なのですが、この日本初の日本語対話型コンピュータを開発したのは私でございます。そういう意味では本当に創世記を駆け抜けてきた、あの開発者なのです。

さて、1991年のこの日本語で対応するコンピュータを開発する数年前のことです。1980年代の半ば、私のチームにはあるミッションがもたらされました。それは人とロボットの対話の設計なんですね。30年後あるいは40年後の社会が想定されておりました。つまり今頃です。2015年を超えると人工知能が世の中に出てくる。その目、形はアンドロイドいわゆるロボットの形をしていなくても携帯電話の中いたり、車の中いたり、家の中だったり、あらゆるところに搭載されて、そして人と人の間にいて人の思いや動線を察して、そして手を差し伸べてくるメカ達ですね。このように人と共存して、さらに共働するメカですので、人の言葉を理解してもらわないと困るわけです。さらに自立型の知能メカ、すなわち勝手に動く機械ですから、このメカにも言葉を紡いでもらわないと私たちは不快なわけです。したがって私に与えられたミッションは、そんな人とロボットが話し合いをして共通理解を作り出す時代に、どのように機械が言葉を紡いでくれたら、私達は幸せにストレスなく共存できるだろうか、というのがテーマでした。さて、その話し合いの一番最初ですが、20人近いチームで私がたった一人の女子です。しかも私は女子大出身です。奈良女子大出身でございまして、女子寮に入って四年間ぬくぬくと女子トークの中にいて、そして私以外の男子は、ほとんど男子ばかりの数学科とかそういう所からやって来たのです。大体お分かりだと思いますが、私の一番最初の感想は「人とロボットの対話以前だわ」と思っています。「あなた達男子と対話にならないんだけど」と思ったのをよく覚えています。さあ、そのように男と女の違いを人工知能の研究者という立場で見つめ続けることになった34年なのです。さて、そんな34年の研究成果の中から今日は日頃使える脳科学のお話として、切り出して持って参りましたのでどうぞお聞きください。

男と女の脳が違って、私たちはずいぶん違う考え方をすること、昨今ではもうご存知の方も多いと思いますが、1980年代の半ばに

は、まだ世の中で知られたことではありませんでした。医学・生理学の分野の論文を紐解きますと、1982年頃、男と女の脳の解剖学的な違いがちらほらと論文に登場するようになりました。しかし、その解剖学的な違いが、例えば脳のある器官が大きいだの小さいだの、そういう違いが機能論的に、つまり、日々の会話の中でどんな風に違っているか、ということにここが気になったのは、多分私達人工知能の研究者が早かったと思います。なぜなら私たち人工知能の研究者は、脳を装置として見立てるからです。どのような入力に対し、どのような演算を施し、どのような出力をしていく装置かと見立てまして、それをコンピューター上でシミュレーションし、さらにチップ化して様々なメカに搭載して、機能性で見ます。脳の器官がどういう役割をしていて、どうやったら壊れて、どうしたら治せるかという話ではなく、全体の機能として、どういう装置として働いているかという見方をします。そうすると、解剖学的な違いをはるかに超えて男女の脳が違うのです。例えば物の色の見え方も違っています。ご存知でしたか? 私たちは物の色を見ると網膜に色覚細胞というのがあって光の三原色RGB、青緑赤の光の三原色にそれぞれ反応する色覚細胞があって、その細胞の反応の比率によってオール天然カラーを見ている。これはテレビの画面のカラーの出し方と同じ原理なんですけれども、三原色で見ている三つの色覚細胞を持っているのは男性のみで、実は女性の半数以上が四原色色覚なのです。赤の領域が男性よりも詳しく見えています。だいたい紫外線と呼ばれている領域に少しはみ出して女性の方が見えており、ピンクから紫へのグラデーションが男性の何十倍も詳しく見分けることができます。赤ちゃんの顔色がちょっと変わってもわかる、食べ物の腐り具合がちょっと変わってもわかる、果物の実り具合がわかる、こういう能力なんだと思います。私たち女性と男性では、実は赤系の色の見え方が違っています。ですので皆様女性向けの商品にピンク色を塗る時はお気をつけください。男性だけでピンク色を決めると女性にとって本当に気持ち悪い色に染まることがあります。女性向けの商品にピンク色を塗るときは女性3人に聞いてみてください。3人が3人も気持ちいいと言ったらほとんど当たりです。

さて、そのように入力系さえ違わなければから演算も違います。そして私が独自に気がついた男女の脳の違いはここなのです。会話のシステムの違いなのです。ロボットの対話エンジンを私が作りまして、1991年にはそれが原子力発電所で稼働するわけですが、その対話エンジンの設計の時に困ってしまいました。男性の対話と女性の対話はスタイル、マナーが違うのです。つまりひとつのプログラムでは書ききれないのです。全く別のプログラムを書かなければいけないということに気がついたからでした。男女の対話、全く相容れない二つのモデルです。どういうことかという、男女の話、感情を伴う男女の対話スタイルは方向が真逆になります。女性は何かことが起こったらその事の発端から事の経緯を辿り、プロセスをなぞるようにしゃべる傾向が高いんですね。例えば何かトラブルが起こった。そしたら「3ヶ月前に私があの人にこう言ったらああ言われて、ああ言ったらこう言われて、そうしたらそうやって、ああ言ったらこう言ったの」というものです。間に色んなちよとした話題も挟みます。「あの、ネクタイの趣味悪いと思わない?」なんて言うことも挟んだりして、3ヶ月分の出来事をしゃべると言う傾向があります。男性にして



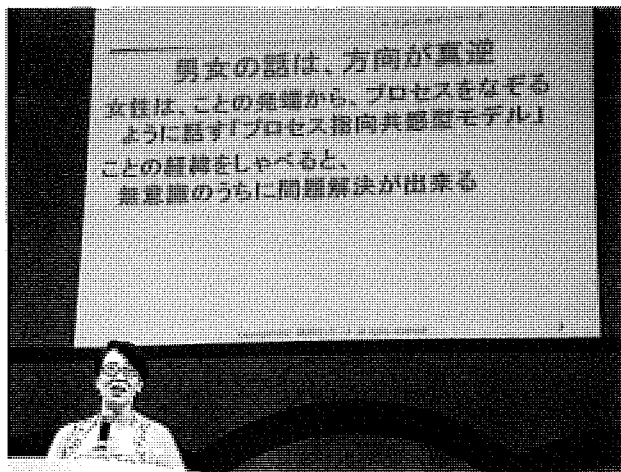
みれば、「なんの話だ?」とか「結論から言えないのか?」とか、色々なことを思われるかもしれませんが…。いいですか、これは無駄な話ではありません。脳を研究してわかったのは、脳は無駄なことは一切しません。このグダグダと喋るように見えるこの裏で、実は女性の脳は問題解決演算を走らせています。これは本人も無意識のうちです。この経緯を喋っているうちにその裏で問題解決のための演算が電気信号を走り始めます。そもそもこの問題点はどこにあるのか、誰が悪いのか、私が悪くなかったとしても私にもできることがあったはず、のような演算です。実は女性脳の場合は恣意的に走らせる問題解決演算よりも、このグダグダと喋っている裏で走る無意識の問題解決演算の方がずっと最適解を出してきます。最も合理的で最も客観的で最も謙虚だと言われています。というわけで紳士の皆様よく聞いてください。女の話は邪魔するなということ。女性が話し始めたら「結論から言えないのか?」とか「お前は何の話をしてるかわかん」とか、そんなことを言っている場合ではありません。さあ女性の方は話したことを共感して気持ちよく聞いてもらおうと問題解決演算が最もスムーズに動くわけです。その時のキーワードは「わかるよ君の気持ち」です。「わかるよ君の気持ち、ああよくわかる」って聞きます。わかるかどうかこの際関係ないのです。「わかるよ」って言葉が重要なのです。「ああわかる、君の気持ちはわかる、でも君も間違っているよ」は全然アリなんです。女性的にはこれが男子はできないのです。男性の脳は私たち女性の想像をはるかに超えて正義感が強いんですよ。この人が間違っていると思っているのに、「わかるよ」って言ったらこの世を裏切ったような気になるのです。男子は、いいです、いいです裏切ってくださいこの世。もし自分の奥様と隣の奥様がトラブルになってその自分の奥様が「こんなことがあって、あんなことがあって」と言ってる時に「ああ、こいつが悪いな」と思っても「君の気持ちよくわかる」って言ってほしいんですよ。いいですか、この世を裏切っても奥様にそれを言っていただきたいのです。なぜなら、わかるって言うともうストレスの信号が減衰するのです。「わかるよ、わかるよ」って言うともうストレスがなくなって、「私もちょっと悪かったかな」って気になってくるんですよ。というわけで「わかるよ、君の気持ちわかるよ」これはもう本当に呪文のように使っていただきたいと思えます。

さて、男性は実はそのように会話をしません。男性はゴール思考問題解決型と呼ばれるスタイルです。先に結論を知りたい。結論があることなら最初に白黒つけて欲しい。結論を出すための会話なら何々のためにこの会話をします、というのを先に言ってほしいのです。なぜこのスタイルを取るかというと、実は男性は女性に比べて今の対話に使う脳の回路の数が圧倒的に少ないのです。脳のワーク領域というところ。今の対話に使う領域が女性の数十分の一と言われてます。多い人でも1/20です。つまりその狭いところで会話をします。これは男性脳の頭が悪い訳ではありません。男性脳は他にすることがあって、おしゃべりに割けないだけです。したがっておしゃべりは狭いところで、一刀両断にしたいのです。話の枝葉を広げたくないのです。このために、まずゴールを見据えてそのゴールから前倒しにして何を話せばいいかを決めたい、というのが男性脳でございます。さらに問題解決型、男性は長らく狩りをしてきたせいで、危険な中に身を置いて、人と協働してきたわけです。この

ために男性というのは、問題点が見つかったらグズグズしてられない、命が危ないから。問題点が見つかった途端に行動に出たいのです。問題点が見つかった途端に小脳という場所に激しく信号が流れます。小脳は空間認知と運動制御、さらに会話の話ははじめをつかさどるところで、つまり問題点が見つかったら立ち上がるか口を挟むか、どっちかしなければいけないという脳なのです。というわけで、奥様が気持ちよく聞いてもらいたい話を展開してる側で「結論から言えないのか?」ってきます。最後の「か」を「か!!」って言うので本当に腹が立ちます。さあ男性はこの結論を出すのはこの人を混乱から救うための愛と誠意でしてらっしゃいます。でも女性はずごくショック。なぜショックかと言いますと脳の中の問題解決演算がアポットするからです。アポットというのは私たちの用語で演算が中断し、そこまでの途中演算がすべて無為になることです。さらに同じ質の演算が二度と立ち上がらないので脳はショックを受けます。なので言われたことが正しくてもそれが正しいとか正しくないとか関係ないんですよ。ショックですから逆ギレします。つまりせつかくアドバイスしたのに「そんなこと聞いてないから」みたいに言われます。「いや、そういうことだったよね」みたいな感じがすると思えますが、これも演算がアポットしたショックでございまして、そのショックのための逆ギレですね。私たちは、女性は女性で、男性は男性で誠実に会話をしているのに、ここに大きなすれ違いが生じているわけです。

さあ復習しましょう。男女の話は方向が真逆。まず事の発端、スタートからしゃべる女性と、事のゴールからしゃべる男性。さらにハンドリングの感性も真逆ですね。片方は「わかるよ、わかるわかる」って聞いてあげる。そしてもう片方は問題点が見つかった途端にあれが悪いこれが悪いという風に言いたい男子、この二つの会話が幸せにできるわけがないですね。私はしたがって気がついたわけでございます。この世の全ての言語に日本語だけじゃないんですよ。この世の人間が使うあらゆる言語にゴール思考問題解決型とプロセス思考共感型があるということ。そして感情を伴う会話においては女性はプロセス思考共感型をほぼほぼ使い、ゴール思考問題解決型を男性はほぼほぼ採択します。

さあこの事実どうでしょう。私はこれを義務教育の国語か家庭科で教えるべきだと思いました。このことを知らずみんな大人になって、間違った会話をしていくわけですね。私の仕事では1990年代にこの二つの対話



エンジンをコンピューター上で既にシミュレーションしています。そしてコンピューター同士を会話させて実験しているんですよ。ちなみに人工知能同士がこれから会話をしていく世の中に入っていきます。皆さんの秘書として働く人工知能が皆さんの携帯に程なく入ようになります。この秘書同士が会話をしてネゴシエーションしてくれる世界が始まります。さあコンピューター同士の会話ね。ゴール思考問題解決型とプロセス指向型別々のエンジンを選んで対話をしますと対話は破綻します。私たちの用語で言う共通の知識モデルです。共通見解モデルが出来上がりません。それだけならまだしも、それぞれのコンピューターが元々持っている知識モデルを壊します。人間になぞらえて言えば心が壊れるということです。恐ろしいことだと思いました。私は人工知能の研究室にいて、最先端を走り抜けてきたエンジニアですが、1990年代に思ったのは、私たちが気づいたこの事実を2020年を超えてロボットの中に搭載するまで、研究室に閉じ込めておくのは惜しいと思いました。外に出して生身の男と女に使ってほしい。マーケティングや人材開発やして家庭円満のために使っていただくために、人工知能の研究室を飛び出して2003年、感性リサーチという会社を起し、現在マーケティングのコンサルティングをして、生業を立てているという感じです。

さあ今日はこんな脳の話を進めて参ります。全体で言えば二章構成です。「脳に存在する男女のミゾ」として「人生の波」のお話。人生のピークはどこになるか皆さんが思っているよりも実はずっと後ろに人生のピークがあるというお話です。ただし二章立てですが、全体のほぼ85%を男女のミゾのお話ですので、空間認知力の高い男性は、私がいかに男女のミゾの話ばかりするので、二章はどこに行っただろうと思って不安になると思いますので最初に言っておきますね。男女のミゾの話、それでは入って参りましょう。

さて「今日なんだか腰が痛くて」というこのセリフ、奥様のセリフだと思ってください。ご飯を食べて寛いでいる時間にふと、奥様が「腰が痛くて」と言った時です。男性の皆様は開口一番何て言って差し上げてますか。この国の成熟男子の多くがいきなりこう言うそうです。「医者に行ったのか?」大丈夫ですかね。「揉んでやろうか」と言う人もいますが、これも大きなお世話でございまして「医者に行ったのか?」と「揉んでやろうか?」この二つが消えますと男子は何を言ったらいいのか、分からんという方が多いと思います。

さて私、女性100人にこの実験をしました。ランチ会の時とかいろんな自然な流れの中で100人にこれを聞いてみました。100人に自然な流れで聞くのに何年かかかりました。さあ自然な流れの中で100人の女子にこの言葉を言ってみたら、なんと100人が100人全員同じことをしました。それは相手の言葉の反復と共感でございます。「ああ、それ腰辛いね」と言います。「腰か、あなた旅も多いし大変ね」と言ってくれます。いいですか、相手の言葉の反復と共感。もし、女子同士で「医者に行ったの?」なんていきなり聞いてくるとしたら、よっぽど相手が嫌い、それをわざわざ知らせるためにしますから。それをなんと夫がしてくるわけだから、「医者に行ったのか?」がどれだけ冷たい言葉かお分かりかと思えます。女性の話は共感で始めるのがセオリーです。というわけで紳士の皆様よくお聞きください。「なんだか腰が痛くて」と言われたら言うことはたった

一つ。「ああ、腰かそれはつらいな」と言います。もう練習していただきたいぐらい。「俺も膝が痛くて」と自分のことは言わなくて結構です。大体、夫というのは自分のことを被せてきます。「なんか風邪気味で頭が痛いの」って言う。「俺も喉が」とか言うてる、被せてきます。なんで被せてくるのかよく分からない。自分のことは言わなくて結構ですから、奥様の不調に注視してください。今日ご夫婦で見られている方、ネタバにしててもOKでございます。ネタバしてても言ってくれば嬉しいですよ、奥様方。というわけで、どうぞ努力していただくように、よろしく願いいたします。

さて、女にとって共感が大事という話を深めて参りましょう。これは私の同期の男子から寄せられた質問です。20年くらい前ですね。私も30代、私の同期も30代、両方ともチームリーダーでございまして、隣に彼のチームがありました。同じ部屋の中に、私はそのチームの会話が少し聞こえて来ました。私の同期の男子は一応プロフィールを言いますと、数学科出身の情報工学の専門家です。しかも男ばかり3人兄弟の長男です。このタイプが最も女の会話の有りようを知らないんですよ。彼のところに男女雇用機会均等法の追い風を受けて、可愛い新人の女性が入ってらっしゃいました。彼女がある日会社に来てこう言いました。「さっき駅の階段で落ちそうになったんです。すごく怖かったです」と言いました。そうしたら私の同期の男子がなんて言うかと、冷静に「で、何段も落ちたの?」と聞いたのです。当然彼女はムかついた顔して「落ちてませんけど」と言って話が終わりました。さあ彼は失敗したことが気がついたらしく、後で私の所に、「俺なんかまずいこと言ったかな」と来ました。「あれはやさしく怖かったらうねとか、なんとか言ってあげればよかったじゃない」と私が言いました。その時の彼のセリフがこれだったのです。「でもさあ、共感しろって言ったって転びそうになったんだけど転ばなかっただよ、それ情報量ゼロじゃない?」って言ってきました。あらまあと思ってその話を聞いたのですけれども、さてこの中でその彼に賛成できるとチラッとでも思った方、30秒後には反省していただかなければいけません。いいですか、女性にとって共感がいかに大事かという話です。女性の脳は怖い、ひどい、辛い、危険を伴う感情は男性の数十倍も強く働き、数百倍も長く残ります。なぜ長引いたり、強く働いたりするかというと、「怖かった、怖かった、怖かったわ」といつまでも思うわけです。「ひどかったわ、ひどいじゃないの」といつまでも思うのです。なぜそんな風に長引くか、強く働くかですが、理由は私たちが哺乳類のメスだからです。哺乳類のメスはお腹の中で、幼体のある程度の大きさまで育て、そして命がけで生み出した後、長い時間自分の血液を母乳という形で与え続けています。つまり自分自身が比較的健全で、しかも系の中で守られていないと生殖を安全に完遂できないのです。生殖は私たち生物の脳の中の第一義。そして哺乳類のメスの場合は自己保全、自分の身を守ることがその第一義になっています。私たち女性はわがままなのではありません。生殖への責任において寒い、暑い、ひどい、辛いのって言い募っているだけです。いいですか、感情的でもない。「私たちは責任においてこれをやっております」なんて言うのと「黒川先生、もう生殖期間終わってますよね」と聞かれたりします。「はいはい終わっています」だから、もう私はあまり「怖い、怖い」と言いません。やはり若くてまだ子供を育てたことのない女性の方が言います。うちのお嫁ちゃんも25



歳の若さですから、「怖い、怖い、怖かった、ゆうさん」なんて息子に甘えていますから、少しイラッとします。でもよくよく考えて今、お嫁ちゃんの脳の中で怖い、怖いと思っているこの時間が将来の子育てにすごく大事だと、知っているから私は少しイラッとしながらも愛おしいと思うようにしています。

なぜ長引くか、実は何か危険な思いをした時に女性は自分の身をこれから守るために危険な場所に自分を追い込んで来たプロセスを脳の中で一回分析しています。無意識のうちにです。女性の脳はプロセス思考と言ってここにも出てくるのです。危険な場所に追い込んだその状況分析を脳の中で行い、さらにその結果自分の身を守った感覚を脳の中にまた書き込むのです。したがって、女性はこれ以降の人生で厳密に言えば二度と同じ危険な場所に自分を追い込むことがないのです。二度と同じ危険な場所に行かないために、脳の中でそこに自分を導いたプロセスを解析して、それを脳のセンスの領域に書き込んでいくわけです。解析する時間と書き込む時間が必要なので長い時間脳を怖いという思いにフィックスさせるために、わざわざ感情が長引くように女性の脳はプログラミングされています。だから未経験の若い女子ほどこれが長引きます。さあこんな訳で私たち女性の脳の中では危険に伴う感情が長く続くわけです。そしてそれは言っても女性もすぐに何か別のことに集中しなければいけない時があります。脳の中にストレスの信号が渦巻いているが何かに集中しなければいけない、このとき女性は何をしようかという、自分の周りにいる人の中で最も信頼できる方に「怖かったんです、辛かったんです」と言います。「怖かった」と言った彼女は、ここで怖かったらうと共感してもらおうとストレスの信号が落ちるのです。理由はこの自分が所属する系のなかで自分が守ってもらえるからです。もう一度女性はわざと感情を長引かせるのですが、その感情は今落としたという時には周りに共感要求してきます。「怖かったのよ、辛かったのよ」と。その時、「ああ、怖かったらう、辛かったらう」と言われたら、ストレスの信号がストンと落ちます。そして気持ちが落ち着きまして、仕事に集中できるわけです。ということは、先程の女性は「怖かったらうね」と自分のボスに言ってもらえれば、「はい、そうなんです」と言って、次の瞬間からプログラミングを100%の集中力でできたはずなんです。ところが「何段落ちたの?」と聞かれた彼女はイラッとするとストレス信号が多分倍増したはず。午前中の仕事は散々だったと思います。さっきの腰が痛いも一緒です。「腰が痛いよ」と言った時に「ああ腰か、辛いな」と言ってもらえれば痛みが半分になります。ところが「医者に行ったのか」なんて言われた日には痛みが倍増します。したがって、女性に共感してあげるといのは本当に大事なことです。今日からは共感の嵐でネタバレしていただきたいと思います。

では、男子の方はどうするか。危険なことが起こった時、男性の方が長引かせません。瞬時にこういう感情は整理してしまうのですが、その代わりに小脳という場所に書き込みます。なぜ男性は長引かないかと言うと、先ほど言いましたが狩りをして来ましたから、こっちの谷に落ちそうになって「僕、谷に落ちそうになりました。怖かった、怖かった、怖かった」とやっていたら、こっちの谷に落ちます。男性は怖い思いはストンと落ちる。しかし、その落ちそうになっただけ落ちなかった、この体の制御の情報を小脳という場所に瞬時に書き込みます。ということは男性は、女性に比べ

ると何度も懲りずに危険な場所に首を突っ込むが、しかしその度に対処する反射神経が良くなるのです。これは男の子と女の子を育てるとよくわかります。女の子はジャングルジムで頭打った日にはしばらくジャングルジムには近寄りません。しかし男の子は毎日頭を打つても、その内ちょっと避けられるようになったりします。男の子と女の子の脳がこんなに違う、男性と女性でこんなに違うのだと思います。危険な目にあった時に、人類に必要な二つの所作、片方はそこに追い込んだプロセスを解析し、片方は自分の体感処理を瞬時に脳の中にしまい込む。どちらも大事な処理で、それを男と女で分け合って持つてくるわけです。この世の男と女の違いを書いた本をよく読んでください。結構たくさん本の中に女は感情的って書いていますが、私は看過できません。女はさっきも言いましたが感情的なのではないのです。知的好みの一環として、知識を蓄えるためにわざと感情を長引かせますが、ちゃんと共感さえてもらえばスイッチが切れます。感情を持って余すなんてことはありません。ということは、女は感情的だと思込んでいるこの著者の方、周りの女性の脳の扱い方に失敗しています。ちゃんと共感していないから逆ギレされて、女は感情的って書くわけなんです。こんな方の書いた男女の本の読んでも意味が無いと思います。男女の本をお読みになるのであれば、是非、黒川伊保子の本をお読みいただきますように。そして女性に言うべきことがあります。男性はもともと共感力が高くないのです。したがって、共感して下さる時はかなりの努力をもって共感して下さいますから、共感してもらったら感謝するぐらいの気持ちでいた方がいいかもしれません。男性は努力して共感しますが、女性は簡単に共感できます。なぜなら女性は共感する方も気持ちいいからです。女性の脳の中には一定程度の体験記憶がこんな形で入っています。その体験記憶を脳にしまった時の心の動き、情動ともいわれます。そしてその心の動きに紐がついています。だから何か心が動いた時にその紐を引っ張る形で関連記憶を一気に脳に取り揃えます。0.06秒と言われる速さだそうなんです。したがって何かちょっと危険な匂いがあった時、似たような危険な匂いのするデータを瞬時に引き出して来て、ほぼ無意識のうちに危険な状態から自分を回避させることができます。体験記憶に心の動きがついていて、その心の動きをキーファクターに一瞬のうちに検索してくるとい、臨機応変力を女性の脳は持ち合わせています。

さて、自分の体験は当然、心の動きともいわれます。他人の体験談もこの形でしまっておけば、自分の知識は広げられるわけですが、他人の体験談に心の動きをつけるのはどうしたらいいか、それが共感でございます。例えば小さなお子さんを育てるお母さん同士が公園で立ち話をして、片方のお母さんが「先週私の赤ちゃんが熱出したの。怖かったわ」なんて話をすると、片方の女子は「怖いよね。赤ちゃんが夜中に熱出したら本当に怖い」と言って話を聞くのです。「わかるわ」と話を聞くのです。そうするとそこで聞いた知識がこの形で脳に入りますから、自分の子供が熱を出した途端にその知識を出すことができるわけです。というわけで、先ほどの階段から落ちそうになった話も女同士だったらこんな感じになります。「さっき駅の階段で落ちそうになって怖かったのよ」と友達に言われたら「ああ、わかるわかる」となります。「駅の階段って結構危ないのよ、あの滑り止めに靴が引っかかるでしょ」「そうよ、そうよ、そうよ」とみんな

な言います。「あなたが今日履いているような先の尖ったエナメル靴は危ないのよ」「そうよ、そうよ、そうよ」とまた、みんな言います。「怖いわ、私たちの年になって階段から落ちたら大腿骨骨折よ」とみんなで言って。そして、ここにいた女子全員が似たような靴で駅の階段を降りるとき無意識のうちに手すりの脇を歩きます。なぜこのように頑張っているかという、女には無駄話という時間は1秒たりともないのです。

さて、男性の方は問題解決のために話をします。だから女性からすると弱点を突いてくるような感じがします。しかし、これも愛と誠意でして、そのことはわかってあげた方がいいと思います。

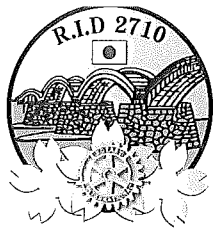
私と夫が2年ほど前ですが、一緒にテレビを見ていました。そのテレビに京都の美しい紅葉のシーンが映ったのですが、あまりにも綺麗で心を打たれました。結婚して30年目で初めて京都に誘ってあげました。「あなた今度の休みに京都に行かない?」と言いました。そうしたら夫が最初に言ったセリフが「お前、紅葉の季節に今から宿が取れる訳ないだろう」と言いました。どうしてこの口は「そうだな」の一言が言えないのだろうと思いました。本当にムッとしました。でも私は研究者なのでわかっております。夫は忙しい私が宿を探して右往左往しているその混乱から救った気です。「お前、俺のような頭のいい夫でよかったな」みたいな感じでした。夫にとっては愛と誠意なんだと研究者としては理解するのですが、女性としてはムカついている訳です。その研究者としての気持ちと女性の気持ち、これを合わせて総論としては「お前のことはもう二度と京都に誘ってやらん」と思いました。という訳で研究者としての理解は何の役にも立たなかったのです。

私が若い女性にいつも言うのは、働く女性が身につけるべき最大のビジネスマナーは「男性が繰り出して来る、いきなり弱点を突いてくる」にへこまないことと言います。ビジネス界は男性脳型です。これは男性が作って男性が牛耳っているからではありません。大量の商品を均一の質で、迅速に市場に送り出して来る、というこのシステムこそが男性脳にぴったりなのです。したがって私たち女性はアウェーで働いているわけですね。産業界では当然男性脳型の会話が基本でございまして、受け止めの言葉なくいきなり弱点を突かれるんです、上司には。でも女性はこのマナーを持たずに育ってくるので、これが結構厳しいのです。「部長こんな提案があるんですが」「ああこれ資料が揃わないからダメ」みたいな言われるのですが、女同士だったら「ああ、いいところに気がついたわね」とか「ああ、よく気がついてくれたわね、でもダメ」と返すのです。返すのは一緒なのだけれども、受け止めの言葉があるのです。これはしょうがないです。産業界には受け止めの言葉はないと思え、そんなことでいちいち傷つかなんかと言うのが働く若い女性に対するメッセージですが、一方で男性の皆様はそれだけ私たちがそこで傷ついているということ、壊滅的にモチベーションを下げています。ここだけは覚えておいていただきたいと思えます。

これは男性からよく寄せられる命題でございます。「女はなぜ、ささいなことに突然キレるのか」。さらに「もう何度謝ったか、何十年前のことを何度も蒸し返すのか」と。女性が蒸し返す理由はデータ型だからです。夫が何か無神経なことを言ったら、過去の無神経な発言全てを0.6秒で脳裏に取り揃えております。危険察知を感じた場合は0.06秒で過去の

全てを、つまり「あなたって本当に思いやりのないのね、アキラを妊娠してつわりがひどかったと言った私にあなた何て言った?」。そのアキラはもう38歳になりますが、もう当たり前です。そういうことは起こります。だって、女性の脳にとっては今ここで起こったことと一緒にだからです。副作用です。女性脳の素晴らしさは過去の体験を一気に使って、家族や自分の身を守る素晴らしさ、その一方でムカついた思いは一生全部思い出してくれる、ということです。女性の方も少し理不尽に昔のことを怒りすぎるといことは覚えておいていただきたいのですが、女性がキレた時には男性に覚えておいてほしいのは今、目の前のことは今の一回の些細なことではなくて、すべての人生の総決算でここに今、傷ついている事だけ覚えておいていただきたいのです。だから、もう謝るしかないと言うことです。仕方ないです。さあ、その誤り方を教えておきましょう。女の機嫌の直し方、男子の皆様謝り方が違います。謝る気持ちは分かるけど、謝り方一個覚えればずいぶん楽でしょう。「あなたって、どうしてそうなの?」かなり機嫌が悪いというのは皆さんはお分かりですね。でも大抵の男子は「ああ、ゴメンゴメン」と言います。いきなりゴメン、しかも2回。こんなのはハエ叩きで叩いているのと一緒です。「あなたって、どうしてそうなの?」と言われて「ああ、ゴメンゴメン」「そうね、許してあげる」なんて夫婦がこの世にいると思えますか?新婚さんなら別かもしれませんがね。つまり謝るときは相手の気持ちを言及するのです。相手の気持ちを言って謝ります。つまり「嫌な思いさせたね、ごめんね」です。結婚20年以上のご夫婦でこれをいきなり言うとは「あ?」と言われる。そこは乗り越えて何度か言っていた方がいいです。そして、若い夫婦なら「仕事と私どっちが大事なの?」「ロータリーと私どっちが大事なの?」なんて言われたこともあるかもしれません。この時も「どっちも大事だろ」なんて正論を言ったり「君が大事だよ、でも仕事も大事じゃないか」と言って「あ、そうだった」なんて反省する訳がないのです。ですからこの場合も「寂しい思いをさせたな、ごめんね」ですよ。そして遅刻した時は、男子は通常遅刻した理由を先に言うのですが、これも違います。ここにいた女性の気持ちをまず言うのです。「寒かったですよ、ごめんね」、「暑かったですよ、ごめんね」、問の季節は「心細かったですよ、ごめんね」で繋げば大丈夫です。この三つ覚えておいてもらおうと一年中回せます。他にも色々叱られるシチュエーションがあると思います。すべてを網羅した「女の機嫌の直し方」。インターナショナル新書から今年の4月に発売したら、すでにロック3入りまして。そうなんです、この世に女の機嫌で悩める男子がどれだけいるか、改めて思い知らされた気持ちでございます。言葉一つですから本当に。

さあ命題3です。男はなぜ、察してくれず、あげく「言ってくればやったのに」なんて無神経なことを言うのだろうか?これは、主婦の方から寄せられる命題です。サンケイリビング新聞社が10年ほど前にアンケートを取りました。夫のムツとくるひとことナンバーワンを教えてください。この一問一答形式のアンケートでこれは堂々の2位なんです。ちなみにその時の1位は「誰のおかげで食えてんだ」です。ひどすぎるでしょ。そんな言葉をロータリアンの方が言うわけがないから、皆様にとっての1位は「言ってくればやったのに」ですよ。その時の3位は忘れちゃったんですが、4位には「殺意が走る」と添え書きがありました。それは「おかずこれだけ?」



だそうです。これは言っちゃだめですね。

さて、男性の方はですが、「言えはいいのにお前」とそんなに悪気がなく言うでしょうが、でも女性は傷つのです。覚えてますが、私も新婚の時、ある日、風邪を引いて咳をしながら洗い物をしていたら、すぐ後ろに夫は座って私に話しかけたりしながら新聞を読んでました。君を幸せにするってプロポーズした以上、咳をしながら洗い物をしている私を後ろからそっと抱きしめて「君大丈夫？僕がやるよ」と言うに決まっていると思って待っていたら、全然来ません。そこで私が腹を立てまして「あなた何で分かってくれないの？」と言ったら「はあ？辛かったら言えはいいじゃん」…。「あ、この人私のこと大事じゃないんだ」と思ったのを覚えています。

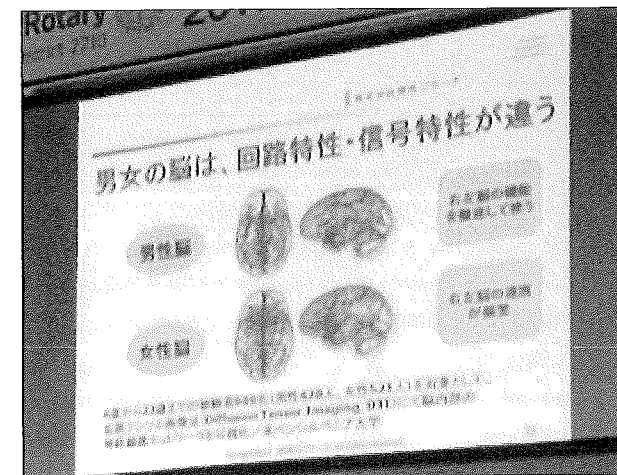
実は、女性の脳は察する天才なんです。女性脳の察する能力は男性の想像を遥かに超えています。女性本人の想像も実は、はるかに超えています。ある時、アンケートを取ったら、こんな主婦の方の回答がありました。ある日、買い物に出たら風邪薬と目が合いました。気になってしょうがないから風邪薬を買って帰りました。我が家は風邪薬を常備する家ではないのに。そうしたらその日に限って、家に帰ってきた夫が「風邪気味なんだ、風邪薬ある？」と聞いてきました。結婚して17年、一度も風邪薬なんて自主的に買って帰ったこともなければ、聞かれたこともなかったのに偶然同じ日でした、という回答でした。この能力は全ての女性に備わっています。自分の家族の体調変化を無意識のうちに気がついて、その日の夕飯のメニューが変わったりしています。そんな素晴らしい存在と皆さん男性の方は暮らしている訳です。女はそこにいるだけで価値があります。察する能力の高い女性は、脳の中で察すること=大切にすることなのです。したがって、察してもらえなかった時に大切にされてないと思います。やってくれないことには腹立たしいが、察してくれないことには傷ついております。

ところが、男性脳の研究をしてなんと悲しいことと思いました。男性の方は察しない天才です。なぜかといいますと、こちら哺乳類のオスです。哺乳類のオスは生殖リスクがメスに比べ圧倒的に少ないので、こちらは目の前の異性を基本受け入れる体制なんです。実は男性ホルモンがフィルターをかけておまして、目の前の異性の粗探しをあまりしないのです。例えば女性の場合、お見合いなんかで男性紹介したりするでしょ。結構イケメンで優しく素敵な人を紹介してるのに、あの人ありえないと言うのです。理由は眉毛の生え際が気持ち悪いとか言います。男性の場合はだいたい10人の美女を連れてきて、代わる代わる抱きしめてあげれば、男性の場合はほぼ嫌じゃないって感じですね。これはもう哺乳類の特徴でして、目の前の異性の粗探しをしない。粗探しをしないということは、察することもできないことです。これは男性の脳が鈍いと言う話ではなく、職務上の感度はどれだけ高いかわからない。例えば金属の研磨面を素手で触って0.何ミクロンの傷がわかる方とかいるんですが、この0.何ミクロンの傷がわかるおじ様も、家に帰って奥様の髪型が変わってるのを見逃すわけです。片や0.何ミクロンですよ。なのに片や15cmがわからない理由です。どれだけ男性の脳が目の前の異性に対して鷹揚が優しいかってことですね。しかし、察することもできないのです。これは仕方がないです。というわけで、ここにいる女性の皆様、察してもらうことは今日一切諦めてください。男性脳の素晴らしい機能です。その代わりウエスト

が10cm増えても、シワが100本増えても、変わらずに妻は妻、愛してくれる夫です。

しかし、男性の皆様は処方箋を差し上げましょう。「言ってくればやったのに」には察することを放棄した言葉だから、加えて女性を傷つけるのです。「言えはいいのにお前」と言われたら「言わなきゃわからん気かあなたは」となる訳です。一方でこれを言えば「あ、君の気持ちに気がつかなくてごめん」これを言ってくれば、察したい気持ちを伝えるので、愛が伝わります。日頃「I love you」をあまり言わないこの国で、「気がつかなくてごめん」は本当に胸にしみる愛の言葉です。「言ってくればやったのに」を言いたくなるピンチはやってくると思います。でも「言ってくればやったのに」を言うと地獄に落ちますからね。「気がつかなくてごめん」さえ言えば天国に上がりますから。ピンチはチャンス、どうぞ愛を伝えてください。

さあ、男性脳と女性脳、こんな風に大きく違うわけですね。解剖学的な根拠はここ言われています。右脳と左脳をつなぐ神経繊維の束「脳梁」という場所が女性の方が男性より太く生まれついてきて、両脳の連携がよいというのが解剖学的な根拠と言われていますが、個人差はあります。男性でも女性よりも太くついてくる方もいらっしゃるし、女性はほぼほぼ太く生まれついてきます。理由は、お母さんのおなかの中にいる時、妊娠28週くらいまでは男女ともほぼ同じ太さ、女性と同じ太さなんです。ところが男の子の胎児に関しては胎盤から男性ホルモンが供給されて、そのおかげで日々、脳梁が細くなっていき、平均で言うところと研究者によってその算出の仕方が違うのですが、5~10%ほど女性よりも細くなって生まれてくるのです。妊娠のコンディションによっては、細くなりすぎないで生まれてくる赤ちゃんもいらっしゃいます。大体男性10人のうちの1、2人は太めで生まれてくるのです。太めで生まれてきたから女っまいかということ、これはイコールではございません。太めで生まれてきて、さらに女性と同じ場所が連携してる場合は女性とよく似た喋り方をして、ゲイのお姉さんになったりすることもあるのですが、アインシュタイン博士は、一般の男性よりも約10%脳梁が太かったそうです。79歳で亡くなった時、解剖した時の脳梁の太さが10%ほど、30代の男子よりも太かったと言われています。同世代の男子に比べたら13%くらいは太かったのではないかと思います。ここが太いと、例えば斬新な新発見ができたり、あるいはデザイナーとかアーティストのようなイメージを形にする人たちがここが太めの方が多いようです。したがって、個人差は色々ありますが、解剖学的な根拠を男女の脳の違いって言っているものかどうかというのは常に専門家の間では論争になってるんですね。私たちは解剖学的な根拠はある意味どちらでもいいのでございまして、要は電気信号の流れ方なのです。電気信号の流れ方の方は、2013年にペンシルヴェニア大学がそれを証明しました。男性と女性の電気信号の使い方の違いです。この図はある一定時間内に起こった電気信号の集積図です。右脳左脳の連携信号がオレンジ色。右脳内、左脳内に閉じられた縦方向の信号が青色でプロットされています。上はかなり青色に見えて、下はかなりオレンジ色に見えていますが、色分けをした二つの図ではなく、同じ法則で書かれています。上と下二名の脳です。右側が脳を真横から見た図、左側が脳を真上から見た図です。下は、右脳と左脳が激しく連携してるのが分か



ると思います。「右脳」は感じる領域、「左脳」は言葉を紡ぎ頭在意識を牛耳る領域でございます。感じたことがどんどん言葉になって、感じたことがどんどん頭在意識に触ってきて、察する天才であり、臨機応変の天才である女性の脳、信号処理の様子を表していますね。上は男性脳のそれでございます。当然24時間365日ということではありません。ただ、上は男性脳型で生まれてきた人が典型的に男性脳型で使った様子。下は女性のそれです。下は右脳と左脳が激しく連携して、察する状態であることが分かると思いますが、上はどういう状態か、脳を深く使っているのが分かると思います。前頭葉から後ろでこに向かって深く使っているし、全体を激しく活性化してますね。脳全体に激しく信号を流して深くものを使っています。これは空間認知の領域を最大限に使った時の様子ですね。例えば、宇宙を思ったり、世界経済を思ったり、理念を打ち立てたり、複雑な図面を書いたり、読んだり、組み立てたりするような時、空間認知の領域を最大限に使った時の信号処理の様子です。ただし、これはおそろく何か処理をする時じゃないんですね。どうしてかということ、右脳と左脳の連携信号が見当たらないんです。右脳と左脳が連携してないということは、目の前のものが認知できてないという状態です。つまり、ボーッとしている時です。実は、男子はニュースとかを垂れ流してボーッとしているあの時に、空間認知の領域を最大限に使って精査しています。つまり、ぼんやりしてる時に頭が良くなってるんですよ。女子の皆様、知らなかったでしょ。ニュースを垂れ流したままボーッとしているから消したりなんかすると叱られるんですね。見てるのとか言ってくるんですよ。へえー見てるんだと思って「さっきのニュースだけどさー」なんて言うとか「はあ？」なんて言ってくるから、「見てないじゃん」なんて腹が立つ瞬間、実は男性はニュースの音声を使って、トランスしています。ぼんやりしている間に頭が良くなっていますので、男性のぼんやり時間は、どうぞそっとしておいてあげてください。特に8歳までの男の子、のちに理系の領域で活躍する男の子はとにかくぼんやりしていますが、放っておかないと空間認知の領域を育ててあげることができないのです。とにかく、ぼんやりは放っておくこと、無駄なおしゃべりも放っておくこと、男と女の間の無駄だと思っていたこの二大は、実は脳にとってとても重要だったということです。

さて、連携が良い女性脳は察する天才であり、臨機応変の天才です。私たち女性脳の力、見つけ抜く力、守り抜く力、臨機応変力でございます。

一方、男性脳の力は右脳と左脳が頻繁に連携しないおかげで、縦方向に深く使われて、空間認知の領域が活性化しています。そして、自分の体調変化にさえ鈍感な、脳のおかげで目の前のことに頓着せず、いちいち動揺することもなく、普通の仕事を成し遂げていける訳です。私たち女性が愛してやまない、男性脳の力は地の果てに行くし、死ぬまで戦うし、むらのない仕事を延々と積み上げる、遠くへ行く力、大きなことをする力、危険なことを積み上げて行く力でございます。俯瞰力です。解剖してみるとそんなには違っては見えない男女の脳も、装置として見たるとこんな風に違うということです。ただ何度も言いますが個人差はあります。女性脳で生まれてきたのに、8歳を超えると男性も女性も異性の脳を手に入れるのです。例えば男性脳で生まれてきても、上に姉が二人以上いる男子の場合は成人するまでの間に女性の対話は、完全マスターされていっちゃいます。女性も右脳の左脳の連携が悪く育つと、男性脳型になりまして理系女子になったりする訳です。個人差はございまして、女だからできないこと、男だからできないことはこの世にはございませぬ。ただ1万人の女子と1万人の男子となると傾向が出てくるということです。

女性は共感してくれた相手に愛着が湧く、女性脳は共感で回っているのです。何度も言いますがそれだけは忘れずに帰ってください。その上、女性脳には秘密がございまして。一日約2万語も脳裏に上がります。そのうち6千語出力すると安らかに寝れるらしいです。男性が頑張っても喋っても千語だそうなので、ゆうに6倍喋らないと寝れません。つまり結論から簡潔に言うなんて無駄なことを私たちにはできないんです。女性の話聞いてやろうと思ったら、女性の対話満足度はこの式でできてくることをお忘れになりませんように。「出力量×共感」です。これ掛け算なので、共感力の高い男子は女子の話が最短で終わると言われていますね。共感力が低いと1時間も話を聞いたあげく、「あなたは私の話を聞いていない」って言われますから。共感力、随分重要ですね。素早い問題解決は必要ないです。「君が悪い」みたいな一刀両断はいりません。相手の言葉の反復ですが、全てを反復すると馬鹿にしたようですからね。その辺りはさじ加減よろしく願います。それと相づちの数が少ないのはダメです。相づちの数が少ないと聞いている感じがしない。「あーはい、あーはい」とか。私はコンサルタントなのでよく聞くビジネスマンのたったひとつの領き語、「なるほどですね」というのがあります。「なるほどですね、なるほどですね、なるほどですね、黒川先生」と言われ、「心で聞いてないでしょう？」なんて聞いたりしています。相づちには「あーい、え、お」をつけてみてください。「あーそうなんだ」、「いいね、わかるよ」、「うんうん、そうかい」、「えっ、そう来たの」、「おっ、わかったよ」など「あーい、え、お」をつけていただくと、かなりノリエーションができますので覚えておいてください。

そして、男性脳の研究が進みますと、男性脳が本当に可哀想で愛おしくなりました。なぜなら、一日6千語聞かされたら早死にします。確実に早死にします。なぜなら、とりとめのない話に耐性が低いのです。人の話を空間認知の領域で聞こうとしています。まず女性脳は朝起きて眠るまでの間、一度も言語の領域の電源を落としません。いつ話しかけられても音声認識できますが、男性は言語のスイッチは時々落としているのです。言語のスイッチを落として何かにぼんやりして何かに夢中



になっている男子に話しかけたら、最初の数語は聞落とすのです。私たち女性は「あなたさ、あの件どうなった」といきなり聞かれてもあなたの「あ」から聞こえますよね。男性は何かに夢中な時に言われた時、どう聞こえているかという、「◎△\$ノ×♀●&#?」と聞こえるのです。音声認識できていません。つまり振り返った時には本題に入っていますから、「はあ?」となる訳です。したがって男性に話しかける時はゆっくりと、相手の目の焦点があつてから本題に入らないといけません。男性はまくり立てられ、何の話かわからない状態になった時、脳の免疫力が七分の一ぐらいに落ちると言われております。可哀想にこんなことが繰り返されたら多分かなり体は弱ってくると思います。女性の方、話し始めはゆっくりと、愚痴や指図で追い立てないこと。結論から数字を言う、これ男性脳にはかなり気持ちがいいです。私は夫に愚痴を聞いてもらう時も「あなた、今日は私に起こった悲しい出来事を話してあげるね」と最初に結論をちゃんと言うのです。そして「あなたがすることは気持ちよく私に共感して話を聞くこと、わかった?」とハンドリングのやり方まで教えておいて、「私に起こった悲しい出来事は二つあります」と話しています。かと言って愚痴は楽しくないようです。

物の見方の違いです。三次元点型認識、男性は無意識のうちに空間全体をまばらに見て物の位置関係や距離感を瞬時に把握します。向こうから飛んで来たものに瞬時に標準が合うための男性脳の処理でございませぬ。一方、女性の方は二次元面型認識と言って半径3m以内を面で潰して舐めるように見ます。針の先ほどの変化も見逃さない。そして、そこにあるべきものでないものがあつた場合、気配で分かるぐらいの物の見方をします。女性は面で潰して手前のものを厚く見る、男性は全体をまばらに見るのです。したがって目の前の物をなと言ったりします。目の前にあるのに「おーい、○○がないぞ」と呼ぶでしょう。夫がある時、私を呼ぶので「棚の真ん中にあるから」と言っても「ない、ない」と言うのです。行きましたら真ん中にありました。そこで私は「これ」と言ったら、「お前今、置いたろ」と言いましたから、そこまで見えないのかと思いました。

私たちはものを見る場所が違うのです。右側の箱は冷蔵庫だと思ってください。冷蔵庫の扉を開けて、見えるものは舐めるように見えるが、奥に入ったものは見えないのです。男性は奥までしっかり見ます。32年前、結婚して私が最初に夫にあげたキャッチフレーズはこれ。「夫は頼んだものは持ってこれないけれど、賞味期限切れの食品だけは本当によく見つける」。嫌がらせかと思いましたが、物の見え方の違いでございました。ドライブに行った時もこれで喧嘩になります。例えば助手席に座っている妻が「あなた、そこ左」と言った時、女性が見ている先は大体20~30m先、男性が見ている先は50m先ぐらいを見えています。「そこ左」言ったのにそこを通り過ぎて50m先を左に行くのです。「何で私の言ったそこで曲がってくれないの」と言えば、「お前の言ったそこで曲がった」と夫は言っていました。ものを見る場所が違うのだからしょうがないのです。しかし、さあこの二つのビューセンサー、素晴らしいセットだと思いませんか。片方は向こうから飛んでくるものに瞬時に標準があつて身をかわすことができる。もう片方は目の前に危険なものがあつたら見えなくても見逃さない。もし、今日政府から電話がかかってくる、「黒川先生、スパイロボットを開発してください」、「最初のミッションは敵アジトへの潜入です」と言わ

れた時、この二つのビューセンサーを開発することになります。しかし、それを一つの処理系に乗せることはできません。一つの処理系に乗せませぬと、二つのビューセンサーから同時に答えが出た時、競合干渉というものが起こり、どちらの答えを採択したら良いかわからないから、ロボットがフリーズしてしまいます。つまり動きを止めてしまいます。一番大事な時に動きを止めてロボットは粉砕されます。したがって二台のロボットを作りまして、片方に女性脳型、もう片方に男性脳型ビューセンサーを搭載し、この二台のロボットが手に手を取って敵アジトに潜入でございませぬ。さらにもう一つプログラミングしなければいけません。お互いに対して自分の方が正しくて、相手が愚かだと思ひ込ませないといけません。その時に競合干渉が一瞬で終わるのです。これが譲り合うロボットだとそんな訳にはいきませぬ。競合干渉が何秒もかかりますから、仕方なく涙を飲んでお互いに自分が正しくて、相手が愚かだと思うようにプログラミングしたこの二体が生存可能性が最も上がります。もう私が何を言いたいかわかりませぬ。自然界の神様はこれを私たち男女の脳に施したんだと思ひます。つまり、男女はムカつくことで最大の成果を上げるのです。男と女の悲しい真実です。違う脳を持って相手に対する理解力がない上に、自分が正しいと信じ込んでいるがために起こる、生存可能性増大の法則です。この世に、二つの脳があるということ。男女は人生に必要な感性を真つ二つに分けて、それぞれに搭載したペアの装置でございませぬ。しかもイラつき合い、ムカつき合うことで、最高のパフォーマンスを出すようにプログラミングされていますので、男女はお互いに違うことを認識し、「愛とはわかり合うこと」という幻想を捨てさせれば、最強の組み合わせです。

そして、人生の波の話をして仕上げたいと思ひます。一生のうち最も頭がいいのはいつか。実は50代半ば以降なんです。私最初、脳科学の先生に脳を教わった時に、その先生は人の脳のピークは28歳まで、30を超えたら老化が始まると言ったのです。「下手すれば100を超えて生きる体に賞味期限28年の脳?」と思ひましたが、脳を装置として見立てましたら、何と一番頭がいいのは50代半ば以降、連想記憶力がピークを迎えるのです。連想記憶力とは物事の本質や人の資質を見抜く力です。人の脳を装置として見立てると28年ごとにイスを変えます。スタイルを変えるのです。最初の28年は入力装置です。とにかく世の中の有り様を脳の中に入れていくため。どうしたらモチベーション、どうしたら儲かるの、どうしたら正しく生きれるの、どうしたらどうしたらどうしたら…。脳がガムシヤラに入力をする28年間です。次の28年間は脳が脳の回路の優先順位をつけていきます。私たちの脳の中には天文学的な数の回路が入つていて、これに漫然と電気信号が流れてしまつたら、物の判断がつかないのです。目の前を通り過ぎる黒い影が猫だとわかるためには、猫がわかる回路にだけ電気信号が流れる必要があります。象が分かる回路にも、ネズミが分かる回路にも電気信号が流れてしまつたら、何やらわからず立ち竦むしかありません。脳の中で優先的に使われる回路が何かというのを知ること。これが大事なんです。これが大事なんです。

さあ、脳にとっても大事なことは、まずいらぬ回路を消すことです。いらぬ回路を消すのは失敗なんです。失敗をして痛い思いをしないと、夜眠っている間に失敗に使われた関連回路のしきい値というのが上がりまし

て、電気信号が流れにくくなります。成功して嬉しい思いをしようと、逆のことが起こりまして、私たちの脳は日々成功しやすく失敗しにくい脳に変わっていくのです。しかも複数の違う成功に共通に使われる回路がありませぬと、それは最も電気信号が流れやすくなります。複数の違う成功に共通に使われる回路、すなわち本質の回路でございませぬ。本質の回路がどんどん増えていって、そしてそれが脳全体に広がるのに28年かかります。56歳の誕生日直前、私たちの脳は出力性能を最大にし、本質を見抜く連想記憶力が最高に働くようになります。実は脳が健康でさえあれば84歳まで続くのです。つまり人間の脳が一生で頭が一番いいのは瞬時に正解が出る、56歳から84歳。さて、そこで人生が終わるかというところではありません。20世紀の終わり頃、すでに脳科学の最先端の研究室の中では人の脳は112歳まで、つまり第4ブロックまでであるのがわかっています。現役のまま90代に突入すると、なんと脳の中の一部が劇的に若返ることがわかっています。成熟した果てにみずみずしく蘇るんです。現在90代現役の方のインタビューをしています、ある方がこうおっしゃいました。大体皆さん似たようなことを言うのですが、「80までは人は世の中をカーテンの向こうに見ているのよ。レースのカーテンの向こうに見ているのよ。80を過ぎるとそのレースのカーテンが開くわ、お楽しみに」と言われました。私ももうすぐ58歳でして、56歳を超えて第3ブロックに入つたのですが、これは第4ブロックを経験して、本に書かないと死ねないと思つた次第です。

さあ、これは将棋の米長名人の言葉です。「20代の時は、何百手先も読めた。50代になると、そんなわけにはいかない。なのに、50代のほうが、なぜか強いんだ。20代、30代は何百手先も読めるけど、何で勝てるかは考えないとわからない。50代は数手しか読めなくても全て勝ち手だ」と。これが50代から始まる脳の特長です。「五十にして天命を知る」と孔子でさえ言いました。28歳まで脳は単純記憶のピーク。単純と言いながらそれほど単純ではありません。脳の中で比較的長くキープできるので、いくつもの記憶が並列でキープできるおかげで、そこから共通項をくり出したりして、コツやセンスもくり出すこともできます。勉強の好機、それから仕事のコツを覚える好機でもあります。28歳までの脳は「鉄は熱いうちに打て」、そんな状態です。がむしやんな状態になっているが、まだ脳の個性は決まっておきませぬ。したがって、この年代は四の五の言わずに働くしかないのです。30歳前後になりますと、どなたの脳の中でもこの単純記憶力がピークを過ぎまして、ガムシヤラな情報収集を脳が休みますので、クールダウンしてきて周りが見えてきます。社会的自我が立つ、「ああ、世の中こんなものだ」と分かるのが30の誕生日の頃です。もし、ご自身の経営する会社の跡取りがいらっしゃるなら、30歳ぐらいの時に一回冒険をさせると脳にとって大変良い経験になります。この社会的自我が立った時、「吾十有五にして学を志し、三十にして立つ」と言つたのは孔子です。天下の孔子のこの人生観は、脳の成長を言い当てているように思ひます。30代は混迷の時、先ほど米長名人が言つた通り「何百手先も見えないけれども、答えがわからない」という苦しい時代です。30代の混迷を優しく見守ってあげたいものです。そして失敗を重ねていけると、脳の中に入らぬ回路ができてきます。つまり電気信号が行かないところが増えてくるわけですから、当然始まるのが物忘れです。物忘れは

進化ですから。ほとんどの物忘れがです。頭の中に女優の顔が浮かんで、しかし名前が出てこない、全然OKです。アンジェリーナ・ジョリーの名前がわからなくても生きていけると脳が思っているだけです。しかし、家に帰って奥さんの名前が一瞬出てこなかったら、これは病院に行かなければいけません。ほとんどの場合が進化で、物忘れが進むとともに成功事例が増えていくのが40代。孔子は「四十にして惑わず」と言つたわけだから、天下の孔子でも30代は惑つたのです。そして50になると本質がわかるようになるが、50代が知る本質はまだ若いと言ひます、青いのです。文脈依存の本質と言ひます、まだ言葉で語る本質です。60代も半ばに入つてまいりますと、本当の成熟脳でございませぬ。脳を言葉ではなく、直感の領域で本質が落ちてまいります。野に咲く花にも、人生の真髄を教わるような達観の域に入つてまいりますと、これこそが人間の脳の完成です。60代、70代は旅と習い事の好機と言ひられています。地球の裏側の初めて行った街に降り立つても、その街の本質がまずストンと落ちるので、若い人の何十倍も、何百倍も感性の情報を捉えて帰ってくると言ひられています。言葉にならない深淵の芸術。書とか、古美術とか能のようなものは常に60代、70代、80代が支えています。さあ「六十にして耳従う」と言つた孔子の言葉ですが、脳科学的に解釈すると「60になると目の前の若者が何か訳のわからないことをまくり立てても、この若者の本質がまずストンと落ちるので、その言葉の後ろにある本当の真実をつかんであげられる」ということではないでしょうか。

そして時間が来たようございませぬ。お付き合いいただきまして、本当にありがとうございました。

